

PRESS RELEASE

四半期決算情報

本書はソシエテ ジェネラルが作成した英文資料の翻訳です。正確な内容については正文である資料をお取り寄せの上、ご参照ください。

パリ、2015年11月5日

2015年第3四半期決算：良好な業績による健全な決算

- 業務粗利益**：2.1%増*、リテールバンキング事業が大幅な伸び
- 営業費用は安定（前年同期比1.0%増*）
- リスク引当比率⁽¹⁾は低水準で維持：46bp（前年同期：58bp）
- グループ当期純利益：11億2,600万ユーロ（前年同期比27.7%増）
- バランスシートの強化：2015年第3四半期末時点の普通株式等 Tier 1（CET 1）比率は10.5%（2015年第3四半期に18bp上昇）、レバレッジ比率は3.9%、総資本比率は15.7%

2015年1～9月期：グループ当期純利益は33億4,500万ユーロ（前年同期比57.0%増）

- 業務粗利益：前年同期比12.4%増の196億ユーロ（前年同期比5.2%増*、経済活動と関係のない項目**控除後）
- 経済活動と関係のない項目**控除後の営業利益：前年同期比16.6%増*
- 株主資本利益率 ROE⁽²⁾：8.6%

1株当たり利益⁽³⁾：3.23ユーロ（前年同期：2.51ユーロ）

* グループの編成変更および為替相場の変動による影響を除き、2014年の業務粗利益に計上され2015年の営業費用に記録された経費の影響の修正再表示後。

** 経済活動と関係のない項目（金融債務の再評価および負債評価調整）による影響：業務粗利益：2015年第3四半期は3億3,800万ユーロのプラス、2015年1～9月期は7億1,600万ユーロのプラス（2014年第3四半期は200万ユーロのマイナス、2014年1～9月期は1億7,800万ユーロのマイナス）、グループ当期純利益：2015年第3四半期は2億2,100万ユーロのプラス、2015年1～9月期は4億6,900万ユーロのプラス（2014年第3四半期は200万ユーロのマイナス、2014年1～9月期は1億1,700万ユーロのマイナス）の控除後。財務情報の基準となる事項を参照のこと。

2015年1月1日まで遡るIFRIC第21号基準の実施に伴い、2014年度決算に係る項目は修正再表示されている。

(1) 訴訟問題の控除後、期初時点の資産およびオペレーショナルリースを含み、bpで計測。年率で算出。

(2) 年率、IFRIC第21号の影響による修正再表示後。経済活動と関係のない項目、訴訟問題とPEC/CELに対する一般引当金の控除後。財務情報の基準となる事項の第2項を参照。

(3) 金融債務の再評価および負債評価調整（DVA）の控除後では、2015年第3四半期の超劣後債および永久劣後債に係る税引後支払利息（2015年1～9月期でそれぞれ3億3,000万ユーロのマイナス、700万ユーロのプラス）の控除後、および2015年第3四半期に計上された一部買戻しに係るキャピタルゲイン/ロス（2015年1～9月期はゼロ）の影響の修正再表示後。金融債務の再評価および負債評価調整（DVA）

PRESS RELATIONS

LAETITIA MAUREL
+33(0)1 42 13 88 68
Laetitia.a.maurel@socgen.com

NATHALIE BOSCHAT
+33(0)1 42 14 83 21
Nathalie.boschat@socgen.com

ANTOINE LHERITIER
+33(0)1 42 13 68 99
Antoine.lheritier@socgen.com

ASTRID FOULD-BACQUART
+33(0)1 56 37 67 95
Astrid.Fould-Bacquart@socgen.com

 @societegenerale

SOCIETE GENERALE
COMM/PRS
75886 PARIS CEDEX 18
SOCIETEGENERALE.COM

A FRENCH CORPORATION WITH SHARE CAPITAL OF
EUR 1,007,625,077.50
552 120 222 RCS PARIS

の控除前では、2015年9月末時点の超劣後債および永久劣後債に係る支払利息の控除後の1株当たり利益は3.82ユーロ。財務情報の基準となる事項の第3項を参照。

2015年11月4日に開催されたロレンツォ・ビニ・スマギ会長を議長とするソシエテ ジェネラルの取締役会において、当グループの2015年第3四半期決算が承認された。

2015年第3四半期の**グループ当期純利益は11億2,600万ユーロ**（前年同期比27.7%増）、2015年1～9月期の**当期純利益は33億4,500万ユーロ**（前年同期：21億3,000万ユーロ）となった。

経済活動と関係のない項目**の修正再表示後の2015年第3四半期の**業務粗利益**は60億2,600万ユーロ（**前年同期比2.1%増***）、2015年1～9月期の**業務粗利益**は188億7,000万ユーロ（前年同期比5.2%増*）⁽¹⁾であった。第3四半期には、リテールバンキング事業の好調な業績が再び確認され、フランス国内リテールバンキング部門の業務粗利益は前年同期比4.2%増（PEL/CELの影響の控除後）および国際リテールバンキング&金融サービス部門の業務粗利益は前年同期比5.0%増*となった。その一方で、ファイナンス&アドバイザー事業が好調だったにも関わらず、夏場に確認された厳しい市況の影響を受け、グローバルバンキング&インベスターソリューションズ部門の収益は10.7%減*となった。

当グループはリテールバンキング事業において、デジタル革命時代における顧客の新たな行動に適応した、**新たなリレーションシップモデルを導入した**。フランス国内では、ソシエテ ジェネラル、クレディ デュ ノール、ブルソラマの3大ブランドを通して展開されている。当グループは、フランスでのブルソラマのオンラインバンキングにおける主要な地位を背景に、ブルソラマの事業拡大を加速化し、2020年までに顧客数を200万人以上に増加させることを目指している。当グループはまた、リレーションシップモデルの改革、新たなデジタル構想の展開、従業員の変革により構成される3本の柱に基づき、ソシエテ ジェネラルとクレディ デュ ノールのネットワークの変革を加速している。この計画により、オムニチャネル リレーションシップに基づき顧客経験を改善させると同時に、2020年までにフランス国内リテールバンキング部門のROEを15%にするという目標に向けて、効率化を改善することが可能となる。

営業費用を順調に管理（2015年第3四半期は前年同期比1.0%増*）。2013年～2015年の経費削減計画は完了し（9億ユーロの経常費用削減を確保）、現在は2017年に向けた変革計画が実施されている。この新たな計画では、4億5,000万ユーロの事業再編費用に対して、8億5,000万ユーロの経常営業費用の追加削減が目標として掲げられている。2015年第3四半期には、4,000万ユーロが事業再編引当金として計上された。

2015年第3四半期の**引当金純繰入額**は前年同期比7.9%減*となり、特に事業リスク引当比率は58bpから46bpへ低下しており、依然として戦略計画に掲げられている2016年末までの目標値（55～60bp）を下回っている。

「バーゼル3」基準の**普通株式等Tier 1 (CET 1) 比率は10.5%**⁽²⁾（2014年9月末時点：10.1%）、レバレッジ比率は3.9%（2014年9月末比で安定）、総資本比率は15.7%（2014年9月末時点：14.6%）であった。

2015年1～9月期の**グループのROE**⁽³⁾は8.6%（前年同期：8.0%）であった。

⁽¹⁾ 絶対ベース、業務粗利益は2015年第3四半期は前年同期比8.3%増の63億6,400万ユーロ、2015年1～9月期は前年同期比12.4%増の195億8,600万ユーロであった。

⁽²⁾ 公表済みのソルベンシー比率は、別途定めのない限り、自己資本規制/第4次自己資本指令(CRR/CRD4規則)の全面適用に基づいて計算されている。財務情報の基準となる事項の第5項を参照のこと。

⁽³⁾ 訴訟問題の一般引当金、経済活動と関係のない項目、PEL/CEL引当金を除き、IFRIC第21号基準実施に加えて、2014に計上されたロシア事業ののれんの減損およびニューエッジの連結に伴う評価差損益による影響の修正再表示後、年率換算。財務情報の基準となる事項の第2項を参照のこと。絶対ベースのROE:2015年1～9月期は9.0%(前年同期:5.8%)。

当グループの 2015 年第 3 四半期決算に関して、最高経営責任者であるフレデリック・ウデアは次のように述べている：

「良好な業績に加えて経費削減およびリスク管理の継続を背景に、当グループは健全な 2015 年第 3 四半期決算を発表することができました。欧州経済が回復する中、当グループのリテールバンキング事業は大幅に拡大し、フランス国内外において新規顧客は記録的な伸びを見せることで、ソシエテジェネラルの成長余地はさらに実証されました。また、当グループの資本形成力により、財務の堅実性は強化され、普通株式等 Tier 1 (CET 1) 比率は 10.5%と、2016 年末の目標である約 11%に近づいています。均衡のとれたバンキングモデルおよび顧客重視戦略は、当グループの価値創造力ならびに、厳しさが増す規制環境において急速に変化する顧客ニーズに適応する力を明らかにしています。銀行業界におけるデジタル革命の進展に遅れを取らないために、競合しつつ補完し合う 3 つのリテールバンキング ブランドを基盤とするフランス国内リテールバンキングのビジネスモデルの変革を加速・拡充すると共に、お客さまに選ばれるリレーションシップバンクを目指してまいります。」

1 - グループ連結決算

(単位：百万ユーロ)	2014年第 3四半期	2015年第 3四半期	増減		2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	増減	
業務粗利益	5,876	6,364	8.3%	+7.9%*	17,432	19,586	12.4%	+10.3%*
業務粗利益 ⁽¹⁾	5,878	6,026	+2.5%	+2.1%*	17,610	18,870	+7.2%	+5.2%*
営業費用	(3,920)	(3,978)	+1.5%	+1.0%*	(11,825)	(12,544)	+6.1%	+3.4%*
営業総利益	1,956	2,386	+22.0%	+21.8%*	5,607	7,042	+25.6%	+25.3%*
営業総利益 ⁽¹⁾	1,958	2,048	+4.6%	+4.4%*	5,785	6,326	+9.4%	+9.1%*
引当金純繰入額	(642)	(571)	-11.1%	-7.9%*	(2,061)	(1,908)	-7.4%	-5.1%*
営業利益	1,314	1,815	+38.1%	+35.4%*	3,546	5,134	+44.8%	+42.1%*
営業利益 ⁽¹⁾	1,316	1,477	+12.2%	+10.1%*	3,724	4,418	+18.6%	+16.6%*
その他の資産による純利益または 純損失	(7)	(1)	NM	NM*	193	(42)	NM	NM*
のれんの減損	0	0	NM	NM*	(525)	0	NM	NM*
計上されたグループ当期純利益	882	1,126	+27.7%	+25.3%*	2,130	3,345	+57.0%	+53.6%*
グループ当期純利益 ⁽¹⁾	884	905	+2.4%	+0.5%*	2,247	2,876	+28.0%	+25.4%*
グループROE (税引後)	7.2%	9.0%			5.8%	9.0%		

(1) 金融債務の再評価および負債評価調整 (DVA) の調整後

業務粗利益

当グループの2015年第3四半期の業務粗利益は63億6,400万ユーロ（前年同期比7.9%増*）、2015年1～9月期では195億8,600万ユーロ（前年同期比10.3%増*）となった。

経済活動と関係のない項目を除くと、当グループの2015年第3四半期の業務粗利益は60億2,600万ユーロ（前年同期比2.1%増*）、2015年1～9月期では188億7,000万ユーロ（前年同期比5.2%増*）となった。

- フランス国内リテールバンキング部門 (RBDF) の2015年第3四半期の収益は、PEL/CEL引当金控除後で、前年同期比4.2%増、1～9月期は前年同期比3.5%増となった（それぞれ絶対ベースでは7.1%増および3.4%増）。低金利環境の中、フランス国内リテールバンキング部門は良好な活動を続け、口座開設件数は過去10年間で記録的な数字に達し、また預金残高および貸出残高は大幅な伸びを見せている。
- 国際リテールバンキング&金融サービス部門 (IBFS) の2015年第3四半期の業務粗利益は前年同期比5.0%増*（1～9月期は前年同期比3.1%増*）となった。グループ編成変更および為替相場の変動による影響の控除後では、ロシアを除く全ての事業活動において増益となり、特に法人向け金融サービスおよび保険事業が好調だった（2015年第3四半期：前年同期比13.6%増*、1～9月期：前年同期比12.2%増*）。国際リテールバンキング事業全般の2015年第3四半期の収益は、主にロシア事業の鈍化による影響を受け、前年同期比0.7%増*（1～9月期：前年同期比1.3%減*）となったが、ロシア情勢は第3四半期に安定した。
- 厳しい市況の中、グローバルバンキング&インベスターソリューションズ部門 (GBIS) の2015年第3四半期の収益は、ファイナンス&アドバイザー事業の活動の伸びにも関わらず、前年同期比10.7%減*となった。2015年1～9月期では、収益は前年同期比2.6%増*となっている（グローバルマーケット&インベスターサービス事業は0.7%増*、アセット&ウェルスマネジメント事業は3.6%増*、ファイナンス&アドバイザー事業は7.8%増*と安定している）。

当グループの金融債務の再評価による会計上の影響は、2015年第3四半期は4億4,700万ユーロのプラス（前年同期：400万ユーロのマイナス）、2015年1～9月期では8億2,100万ユーロのプラス（前年同期：1億8,300万ユーロのマイナス）となった。負債評価調整（DVA）の影響（財務情報の基準となる事項の第7項を参照）は、2015年第3四半期は1億900万ユーロのマイナス（前年同期：200万ユーロのプラス）および2015年1～9月期は1億500万ユーロのマイナス（前年同期には500万ユーロのプラス）であった。これらの2つの要因が当グループの業績分析において修正再表示された経済活動と関係のない項目を構成している。

営業費用

当グループの2015年第3四半期の営業費用は前年同期比1.0%増*と全般的に安定していた。2015年1～9月期では、営業費用は125億4,400万ユーロ（前年同期：118億2,500万ユーロ）となった。営業費用はIFRIC第21号基準の実施に伴う会計方法の変更を反映している。その結果、従来の会計基準であれば一括で計上されていたが、上記の変更に伴いいくつかの費用が発生した。

2015年第3四半期に当グループは2013～2015年の経費削減計画を完了し、当初予算を下回る4億5,700万ユーロの変革費用にて、計画されていた経常費用削減額9億ユーロ満額を確保した。2015年に開始された新たな変革計画に基づく、当グループの経常費用を8億5,000万ユーロ削減することを目標とするプロジェクトに伴う再編費用として、4,000万ユーロの引当金が計上された。

営業利益

当グループの2015年第3四半期の営業総利益は前年同期の19億5,600万ユーロから23億8,600万ユーロまで21.8%増加*した。2015年1～9月期の営業総利益は前年同期比25.3%増*の70億4,200万ユーロとなった。この大幅な増益は主に、金融債務の再評価における経済活動と関係のない項目の影響によるものである。経済活動と関係のない項目の控除後では、2015年第3四半期の営業総利益は前年同期比4.4%増*、2015年1～9月期では前年同期比9.1%増*となる。

当グループの2015年第3四半期の引当金純繰入額は前年同期比7.9%減*の5億7,100万ユーロとなった。

当グループの事業リスク引当比率（貸出残高に対する割合）は2016年の目標値に沿う形で低下傾向を続け、前期の44bpおよび前年同期の58bpから、2015年第3四半期には46bp⁽¹⁾となった。

- フランス国内リテールバンキング部門では、法人顧客が低水準となったことから、事業リスク引当比率は安定し42bp（前期：38bp、前年同期：51bp）となった。
- 国際リテールバンキング&金融サービス部門のリスク引当比率は91bp（前期：96bp、前年同期：128bp）と全般的に低下した。厳しい経済環境にも関わらず、ロシアのリスク引当比率は安定した。
- グローバルバンキング&インベスターソリューションズ部門の2015年第3四半期のリスク引当比率は、石油&ガス事業に係る慎重な引当金の計上にも関わらず17bp（前期：10bp、前年同期：6bp）と依然として低水準にある。

2015年1～9月期の引当金純繰入額は19億800万ユーロのマイナス（前年同期：20億6,100万ユーロのマイナス）であった。

2015年9月末時点の総不良債権比率は5.5%（2014年9月末時点：6.4%）であった。当グループの2015年9月末時点の総不良債権引当比率は、2014年9月末比で1ポイント増の64%となった。

⁽¹⁾ 年率ベース、訴訟問題の控除後、期初時点の資産およびオペレーショナルリスを含む。

当グループの営業利益は、引当金純繰入額の減少および営業総利益の増加を背景に大幅な伸びとなり、2015年第3四半期は前年同期比35.4%増*の18億1,500万ユーロ、2015年1~9月期は前年同期比42.1%増*の51億3,400万ユーロとなった。

当期純利益

所得税（当グループの実効税率：2015年第3四半期は34.7%、2015年1~9月期は31.3%）および少数株主持分の控除後では、2015年第3四半期のグループ当期純利益は11億2,600万ユーロ、2015年1~9月期は33億4,500万ユーロであった。グループ当期純利益は2014年第3四半期には8億8,200万ユーロ（実効税率：30.2%）、2014年1~9月期では21億3,000万ユーロ（実効税率：26.7%）であった。

経済活動と関係のない項目（金融債務の再評価および負債評価調整（DVA））⁽¹⁾の修正再表示後では、グループ当期純利益は2015年第3四半期に9億500万ユーロ（前年同期：8億8,400万ユーロ）となった。経済活動と関係のない項目の控除後の、2015年1~9月期のグループ当期純利益は28億7,600万ユーロ（前年同期：22億4,700万ユーロ）であった。

ROE および 1株当たり利益

2015年1~9月期の当グループのROE⁽²⁾は8.6%であった。同一条件ベースでは、2014年1~9月期のROEは8.0%であった。

超劣後債および永久劣後債に係る支払利息⁽³⁾の控除後では、2015年9月末時点の1株当たり利益は3.82ユーロ（2014年9月末時点：2.35ユーロ）であった。金融債務の再評価および負債評価調整（DVA）の控除後では、超劣後債および永久劣後債に係る支払利息の控除後の1株当たり利益は3.23ユーロ（2014年9月末時点：2.51ユーロ）であった。これは取締役会および年次株主総会に提出される配当金分配案の計算根拠となっている（50%の配当性向）。

⁽¹⁾ 2014年および2015年の財務情報の基準となる事項の第7項に詳細が記載されている経済活動と関係のない項目を除く。

⁽²⁾ 財務情報の基準となる事項の第5項を参照のこと。経済活動と関係のない項目、訴訟に対する一般引当金、PEL/CEL引当金を除き、IFRIC第21号基準実施の影響の調整後。ロシアののれんの減損および2014年のニューエッジの初期連結の影響（収益に対する3億1,500万ユーロのマイナスの影響）の控除後。IFRIC第21号基準に関する調整は、四半期毎に、事業年度に係る負担税額の25%を修正している。絶対ベースのROE：2014年第3四半期は7.2%、2014年1~9月期は5.8%。絶対ベースのROE：2015年第3四半期および2015年1~9月期は9.0%。

⁽³⁾ 超劣後債および永久劣後債に係る2015年1~9月期の税引後支払利息は、それぞれ3億3,000万ユーロのマイナスおよび700万ユーロのプラスであった。財務情報の基準となる事項の第3項を参照。

2 - グループの財務構造

2015年9月30日時点の当グループの**株主資本**は総額 579 億ユーロ⁽¹⁾ (2014年12月31日時点：552 億ユーロ)、1株当たり有形純資産価値は 53.98 ユーロ (未実現キャピタルゲインの 1.48 ユーロを含む1株当たり純資産価値：60.46 ユーロに相当)であった。

2015年9月30日時点の連結バランスシートは総額 1兆 3,520 億ユーロ (2014年12月31日時点：1兆 3,080 億ユーロ)であった。顧客貸出残高 (リースファイナンスを含むが、現先取引に基づき購入した有価証券を除く) は 3,810 億ユーロ (2014年12月31日時点：3,560 億ユーロ)であった。同時に、顧客預金残高は 2014年12月31日時点の 3,280 億ユーロに対して 3,520 億ユーロであった (現先取引に基づき売却した有価証券を除く)。

2015年第3四半期末時点で、2015年の中期資金調達計画に係る上位債および劣後債により調達した資金は総額 310 億ユーロ^(a)となった。親会社レベルでは、2015年9月30日時点で 260 億ユーロ^(a)を調達している。リファイナンス源の内訳は、無担保上位バニラ債が 61 億ユーロ、ストラクチャード私募債が 138 億ユーロ^(a)、担保付資金調達 (SG SFHとSG SCF) が 15 億ユーロ、劣後Tier 2の発行が 35 億ユーロ、永久劣後追加Tier 1の発行が 11 億ユーロとなっている。子会社レベルでは、2015年9月30日時点で 50 億ユーロが調達されている。2015年9月末時点のLCR (流動性カバレッジ比率) は 144% (2014年末時点：118%) であった。

2015年9月30日時点の当グループの**リスク加重資産** (自己資本規制/第4次自己資本指令 (CRR/CRD4 規則) を基準に算出) は 3,550 億ユーロであった (2014年12月末および2014年9月末時点：3,530 億ユーロ、2015年6月末時点：3,610 億ユーロ)。信用リスクに係るリスク加重資産は依然としてリスクの大部分を占めており、全体の 80%超と、前年比で約 2 ポイント上昇している。

2015年9月30日時点の当グループの**普通株式等Tier 1比率**⁽²⁾は 10.5%⁽³⁾ (2014年12月末時点：10.1%、2016年末の目標：約 11%) であった。Tier 1比率は 13.2% (2014年12月末時点：12.6%)、総資本比率は 15.7% (2014年12月末時点：14.3%) であった。当グループは 2015年11月2日に開始された新規株式公開 (IPO) において、アムンディの持分を売却する意向を発表している。気配値が 42.00 ユーロ~52.50 ユーロで固定されていることに基づくと、ソシエテ ジェネラルの全持分を売却した場合、2015年12月31日時点の普通株式等Tier 1比率は 22~26bpの影響を受けることとなる。

2015年9月末時点の**レバレッジ比率**は 3.9%⁽²⁾ (2014年12月末時点：3.8%) であった。

当グループは格付け機関の DBRS (長期債格付け：A (high) 安定した見通し、短期格付け：R-1 (middle) 安定した見通し)、フィッチ (長期債格付け：A 安定した見通し、短期債格付け：F1)、ムーディーズ (預金および上位無担保長期債格付け：A2 安定した見通し、短期債格付け：P-1、長期カウンターパーティ・リスク評価：A1、短期カウンターパーティ・リスク評価：P-1)、S&P (長期債格付け：A ネガティブな見通し、短期債格付け：A-1) および R&I (長期債格付け属性：A 安定的) より格付けを付与されている。

(1) この数値には主に 94 億ユーロの超劣後債および 4 億ユーロの永久劣後債が含まれる。

(2) 全面適用の比率。財務情報の基準となる事項の第5項を参照。

(3) 2015年9月末時点の段階的適用の比率 (当期の収益が含まれている) は 11.1% (2014年12月末時点：10.9%)。財務情報の基準となる事項の第5項を参照。

(a) 2015年11月5日に発表された情報において数値は修正再表示されている：総額 315 億ユーロ；親会社 265 億ユーロ；ストラクチャード私募債 143 億ユーロ。

3 - フランス国内リテールバンキング部門

(単位：百万ユーロ)	2014年第 3四半期	2015年第 3四半期	増減	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	増減
業務粗利益	2,019	2,162	+7.1%	6,158	6,370	+3.4%
業務粗利益：PEL/CEL関連を控除	2,082	2,170	+4.2%	6,236	6,453	+3.5%
営業費用	(1,285)	(1,326)	+3.2%	(3,934)	(4,021)	+2.2%
営業総利益	734	836	+13.9%	2,224	2,349	+5.6%
営業総利益：PEL/CEL関連を控除	797	844	+5.9%	2,302	2,432	+5.6%
引当金純繰入額	(237)	(201)	-15.2%	(738)	(614)	-16.8%
営業利益	497	635	+27.8%	1,486	1,735	+16.8%
グループ当期純利益	317	410	+29.3%	956	1,102	+15.3%
グループ当期純利益：PEL/CEL関連を控除	356	415	+16.6%	1,005	1,154	+14.8%
ROE	12.8%	16.8%		12.7%	15.0%	

2015年第3四半期のフランス国内リテールバンキング部門は、今上半期の健全な勢いを踏襲して事業活動、業績ともきわめて好調だった。

リテールバンキング 3 社では、特に大衆富裕層（マス・アフルエント）、富裕層（ハイネットワーク）顧客を中心に顧客基盤の拡大が続き、10 年来の高水準に達した。個人顧客の当座預金口座の正味開設数は、2015 年 1～9 月期にソシエテ ジェネラル、クレディ デュ ノール、ブルソラマの 3 社合計で前年同期比 59%増加し、27 万 4,000 口座近い増加となった。ブルソラマは 2015 年 9 月末現在、フランス国内の顧客が 71 万 2,000 件超に達した。

この顧客との特別な関係を強みに、ソシエテ ジェネラルは「カスタマーサービス・オブ・ザ・イヤ-2016」に選出された。ソシエテ ジェネラルが Viséo Conseil からこの賞を受賞するのはこれで 4 度目となる。同賞は、日常的に顧客をサポートし、顧客にとってよりシンプルかつ身近で、役に立つ銀行になるべく顧客の話に耳を傾けてきた社員の貢献を高く評価したものである。

2015 年第 3 四半期の平均預金残高は、過去数四半期の流れを受けて前年同期比 5.0%増の 1,717 億ユーロとなった。この伸びをけん引したのは、依然きわめて堅調に推移している（前年同期比 15.1%増）要求払い預金の新規預入である。また、生命保険の正味新規契約高は、年初来のユニットリンク保険の新規契約加入率の好調持続（新規契約総額で平均 20.7%）を背景に、2015 年第 3 四半期に前年同期比 12%増、2015 年 1～9 月期では前年同期比 21%増となった。

2015 年第 3 四半期の平均貸出残高は、前年同期比 2.7%増の 1,790 億ユーロとなった。伸びの背景には、きわめて好調な住宅ローン契約（前年同期比 2.3 倍）と法人顧客需要の段階的回復（投資ローンは前年同期比 23%増）がある。2015 年第 3 四半期の平均預貸率は 104%と、引き続き改善した（2014 年第 3 四半期は 107%）。

当部門の収益は好調な事業活動にけん引され、PEL/CEL 引当金の影響を調整した後で前年同期比 4.2%増加した（2015 年当初 9 カ月では前年同期比 3.5%増）。PEL/CEL 関連の影響を控除した正味

受取利息は、2015年第3四半期、1～9月期とも前年同期比で3.4%増加した。預金、貸出残高の増加と良好な貸出水準が、低金利と住宅ローン再交渉によるマイナスの影響を打ち消した結果である。

手数料収入の伸びは2015年第3四半期に前年同期を上回る5.5%に加速し、1～9月期では3.5%増となった。生命保険事業の活況とグループの他部門との相乗効果が奏功した。

営業費用は、主に欧州単一破綻処理ファンドの実施とデジタル投資の加速により、2015年第3四半期に前年同期比3.2%、1～9月期に同2.2%それぞれ増加した。しかし、営業費用の増加は依然、業務粗利益の増加を下回ったため、フランス国内リテールバンキング部門の経費率は2015年1～9月期で62.1%と、当グループの目標に一致した（PEL/CEL引当金を除き、IFRIC第21号基準実施の影響の25%を反映して再表示）。

引当金純繰入額は大幅に減少した（2015年第3四半期は前年同期比15.2%減、1～9月期では同16.8%減）。

PEL/CEL関連の影響を除くと、フランス国内リテールバンキング部門の2015年第3四半期のグループ当期純利益への寄与は4億1,500万ユーロと、前年同期比16.6%増加した。2015年1～9月期の寄与は11億5,400万ユーロ（14.8%増）で、健全な収益性レベルとなった（PEL/CEL関連の影響を除き、IFRIC第21号基準実施の影響の25%を反映して再表示したROEは15.9%）。

4 - 国際リテールバンキング&金融サービス部門

(単位：百万ユーロ)	2014年第 3四半期	2015年第 3四半期	増減		2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	増減	
業務粗利益	1,899	1,888	-0.6%	+5.0%*	5,576	5,524	-0.9%	+3.1%*
営業費用	(1,048)	(1,018)	-2.9%	+2.1%*	(3,208)	(3,222)	+0.4%	+3.9%*
営業総利益	851	870	+2.2%	+8.6%*	2,368	2,302	-2.8%	+2.1%*
引当金純繰入額	(378)	(302)	-20.1%	-14.4%*	(1,068)	(922)	-13.7%	-8.7%*
営業利益	473	568	+20.1%	+26.1%*	1,300	1,380	+6.2%	+10.7%*
その他の資産による純利益 または純損失	(1)	(1)	+0.0%	NM*	2	(27)	NM	NM*
のれんの減損	0	0	NM	NM*	(525)	0	NM	NM*
グループ当期純利益	311	342	+10.0%	+16.4%*	302	793	x2.6	x2.9*
ROE	12.9%	14.2%			4.2%	11.0%		

2015年第3四半期の国際リテールバンキング&金融サービス部門は、事業活動全般が活況だったことから増収となった（前年同期比 5.0%増*の 18 億 8,800 万ユーロ）。営業費用は微増の 10 億 1,800 万ユーロだった（前年同期比 2.1%増*）。営業総利益は 8 億 7,000 万ユーロ（前年同期比 8.6%増*）で、経費率は 1.3%ポイント低下の 53.9%だった。同期間の引当金純繰入額は、ルーマニアでの大幅な削減が奏功して 14.4%減*という大きな改善となった。2015年第3四半期の当部門のグループ当期純利益への寄与は、法人向け金融サービス事業と保険事業の業績好調を背景に、前年同期比 10.0%増の 3 億 4,200 万ユーロとなった。ロシアの状況は改善しているものの、引き続き当部門を圧迫している。

2015年1~9月期では、収益は前年同期比 3.1%増*の 55 億 2,400 万ユーロだった。また、営業利益は 13 億 8,000 万ユーロ（前年同期比 10.7%増*）で、グループ当期純利益に対する寄与は、2014年1~9月期の 3 億 200 万ユーロを大幅に上回る 7 億 9,300 万ユーロとなった。

国際リテールバンキング事業

2015年第3四半期の国際リテールバンキング事業は、過去数四半期に見られた成長傾向が持続した。貸出残高は 772 億ユーロで、前年同期比 2.9%増加*した。特にチェコ共和国、ドイツ、バルカン半島諸国、アフリカの業績好調が寄与した。預金残高は引き続き着実なペースで伸び（前年同期比 5.6%増*）、2015年9月末現在で総額 693 億ユーロとなった。特に欧州での新規預入が好調だった。

2015年第3四半期の収益は 12 億 8,500 万ユーロと、欧州とアフリカの増収がロシアの減収を相殺し、前年同期比で微増となった（0.7%増*）。同期間の営業利益は、厳格な営業費用管理と引当金純繰入額の減少が寄与して前年同期比 22.2%増*の 2 億 5,700 万ユーロとなった。グループ当期純利益への寄与は、ロシアの業績悪化により、前年同期比横ばい（0.8%減）の 1 億 2,900 万ユーロだった。2015年1~9月期では、当事業の収益は 37 億 5,600 万ユーロとなり、グループ当期純利益への寄与は 2 億 5,800 万ユーロだった。2014年1~9月期は、ロシア事業ののれん残全額の減損による影響により 2 億 1,300 万ユーロの損失を計上していた。

西欧では、当部門はドイツ、イタリア、フランスで消費者金融事業を行っているが、ドイツで自動車ローンを中心に弾みがつき（13.0%増*）、貸出残高は前年同期比 5.1%増*の 143 億ユーロとなった。2015 年第 3 四半期の当地域の収益は 1 億 7,300 万ユーロ（前年同期比 8.4%増*）、営業総利益は 8,700 万ユーロ（11.9%増*）となった。グループ当期純利益に対する寄与は大幅に増加して 3,600 万ユーロとなった（前年同期比 80.0%増）。

チェコ共和国では、2015 年第 3 四半期のコメルチニバンカ（KB）の事業活動が良好で、住宅ローンと大企業に支えられて貸出残高が前年同期比 8.5%増*の 194 億ユーロとなった。預金残高は 3.6%増*の 245 億ユーロだった。2015 年第 3 四半期の収益は、市場の低金利を背景に前年同期比 1.7%減*の 2 億 5,500 万ユーロとなった。営業費用は 1 億 3,300 万ユーロで横ばい*だった。グループ当期純利益に対する寄与は、低水準のリスク引当比率により 5,500 万ユーロ（前年同期比 1.9%増*）の着実な水準を維持した。

ルーマニアでは、経済環境が改善したものの貸出需要の低迷が続き、BRD グループの 2015 年第 3 四半期末の貸出残高は前年同期比 2.7%減*の 62 億ユーロとなった。しかし、今第 3 四半期の預金の新規預入は引き続ききわめて好調で、預金残高は前年同期比 13.2%増*の 87 億ユーロとなった。BRD グループの 2015 年第 3 四半期の収益は、低金利環境を背景に利ざやに重圧がかかったことから 1 億 2,900 万ユーロに減少した（前年同期比 6.2%減*）。それでも BRD グループは営業費用を厳格に管理し、引当金純繰入額を大幅に圧縮（71.6%減*）したことにより、2015 年第 3 四半期のグループ当期純利益への寄与は 900 万ユーロのプラスとなった。

その他の欧州諸国では、2015 年第 3 四半期に貸出残高が前年同期比 6.4%増*の 111 億ユーロとなり、中でもバルカン半島諸国（6.3%増*）が法人、個人顧客とも順調に伸びた。預金残高は、前年同期比 9.5%増*の 106 億ユーロだった。今四半期は、収益が前年同期比 10.7%増*の 1 億 8,700 万ユーロとなった一方、営業費用は 1 億 1,100 万ユーロ（1.1%増*）と引き続き厳格に管理された。2015 年第 3 四半期のグループ当期純利益に対する寄与は、リスク引当比率の上昇により、前年同期の 2,600 万ユーロに対して 1,000 万ユーロにとどまった。

ロシアでは、厳しい環境の中で 2015 年第 3 四半期の貸出残高は依然前年同期の水準を下回り、14.3%減*の 85 億ユーロになった。しかし貸出残高は、法人向けの業績維持と個人ローンの新規契約により今第 3 四半期に回復に転じた（2015 年第 2 四半期比で 2.6%増*）。一方、預金残高は前年同期比横ばい*の 68 億ユーロだった。SG ロシア法人の流動性ポジションは引き続き強固で、ロスバンクの預貸率は 2015 年 9 月末現在、86%となっている。業務粗利益は 10.0%減*の 1 億 6,900 万ユーロとなったが、利ざやの改善と数量増により、2015 年第 2 四半期からは大幅に改善した（26.3%増*）。営業費用は、二桁のインフレにも関わらず前年同期比 1.1%増*の 1 億 3,200 万ユーロと厳格に管理され、事業の合理化もさらに進んだ（2014 年 12 月比で正規従業員が 2,669 人、支店が 77 店減少）。全体として、SG ロシア事業⁽¹⁾の損失は今第 3 四半期にさらに縮小し、2015 年第 2 四半期の 4,500 万ユーロから 2,000 万ユーロとなった。

当グループが事業を営むアフリカおよびその他の地域では、2015 年第 3 四半期の貸出残高が前年同期比 5.2%増*の 178 億ユーロとなり、特にアフリカは大幅に伸びた（9.0%増*）。同期間の預金残高は全体で 5.6%増加*した。2015 年第 3 四半期の収益は、アフリカでの数量増を背景に前年同期比 2.4%増*の 3 億 7,200 万ユーロとなった。営業費用は前年同期比横ばい（1.0%減*）の 2 億 700 万ユーロだった。同期間の引当金純繰入額は 17.4%減少*した。2015 年第 3 四半期のグループ当期純利益への寄与は総額 4,900 万ユーロと、前年同期比 2.1%増加した。

⁽¹⁾ SG ロシアの決算：ロスバンク、デルタクレジット・バンク、ラスファイナンス・バンク、ソシエテ ジェネラル インシュランス、ADL オートモーティブおよびこれらの連結子会社のグループ事業決算への寄与。ロシアにおける国際リテールバンキング：2014 年第 3 四半期は 400 万ユーロのプラス寄与、2015 年第 3 四半期は 3,000 万ユーロのマイナス寄与。

保険事業

2015年第3四半期の保険事業は、22億ユーロに上る新規契約受入資金を背景に堅調な増勢ペースを維持した。生命保険契約残高は前年同期比5.5%増*の927億ユーロとなり、契約残高に占めるユニットリンク商品のシェアが20.8%に伸長した。

2015年第3四半期の人的・物的損害保険の受取保険料収入は好調なフランス国内の業績（10.0%増*）を背景に合計3億1,500万ユーロ（前年同期比3.7%増*）に拡大した。

2015年第3四半期の業務粗利益は2億600万ユーロ（前年同期比7.7%増*）、2015年1～9月期では6億1,600万ユーロ（前年同期比9.8%増*）に膨らんだ。保険事業の当グループ当期純利益に対する寄与は、2015年第3四半期は8,900万ユーロ（前年同期比8.5%増）、2015年1～9月期では2億4,700万ユーロ（前年同期比8.3%増）となった。

法人向け金融サービス事業

2015年第3四半期の法人向け金融サービス事業は非常に良好な業容拡大と堅調な収益の伸びを示した。

ALD部門では引き続き既存事業の成長を通じて管理車両台数を伸長させ（前年同期比6.8%増*）、強固な市場ポジションを維持した。

2015年第3四半期の設備ファイナンス事業は、スカンジナビアとイタリアをけん引役として、高水準の新規契約高（ファクタリングを除き前年同期比5.2%増*）を達成した。貸出残高は153億ユーロ（ファクタリングを除き前年同期比4.3%増*）となった。

2015年第3四半期の法人向け金融サービス事業全体の収益は力強く拡大し、3億9,400万ユーロ（前年同期比16.9%増*）となった。同期間の厳格な経費管理が営業費用の伸びを7.4%*に抑制させた結果、営業総利益は前年同期比27.3%増*となった。2015年第3四半期のグループ当期純利益への寄与は、23.1%増の1億2,800万ユーロに拡大した。2015年1～9月期の収益は11億4,000万ユーロ（前年同期比13.6%増*）となり、グループ当期純利益への寄与は3億5,500万ユーロ（前年同期比22.0%増）に高まった。

5 - グローバルバンキング&インベスターソリューションズ部門

(単位：百万ユーロ)	2014年第3 四半期	2015年第 3四半期	増減		2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	増減	
業務粗利益	2,115	2,000	-5.4%	-10.7%*	6,537	7,265	+11.1%	+2.6%*
営業費用	(1,537)	(1,562)	+1.6%	-2.8%*	(4,621)	(5,196)	+12.4%	+3.2%*
営業総利益	578	438	-24.2%	-30.6%*	1,916	2,069	+8.0%	+1.3%*
引当金純繰入額	(27)	(68)	x2.5	x2.2*	(53)	(174)	x3.3	x2.9*
営業利益	551	370	-32.8%	-38.4%*	1,863	1,895	+1.7%	-4.3%*
グループ当期純利益	456	320	-29.8%	-34.8%*	1,487	1,533	+3.1%	-2.5%*
ROE	13.7%	8.5%			15.5%	13.9%		

グローバルバンキング&インベスターソリューションズ部門の2015年第3四半期の収益は、前年同期比5.4%減の20億ユーロだった。ファイナンス&アドバイザー事業は伸びたものの、厳しい市場環境下でグローバルマーケットの減収が響いた。

当部門の2015年1~9月期の収益は72億6,500万ユーロと、前年同期比で11.1%の着実な伸びとなった。

グローバルマーケット&インベスターサービス事業

2015年第3四半期の環境は、中国の人民元切り下げの影響と株式市場の混乱が特に響き、ボラティリティとコリレーションの急激な上昇を招く展開となった。

その結果、グローバルマーケット&インベスターサービス事業の収益は、2015年上半期に堅調に伸びた後、今第3四半期は前年同期比10.4%減の11億8,500万ユーロとなった。しかし、2015年1~9月期では46億8,700万ユーロと、前年同期比10.9%の大幅な増収を記録した。

- **エクイティ業務**の2015年第3四半期の収益は4億1,100万ユーロで、前年同期比5.5%減少したが、2015年1~9月期では20億6,400万ユーロと31.0%⁽¹⁾の大幅増を維持した。今四半期の収益は、欧州の厳しい市場環境とストラクチャード商品の低調な事業活動が逆風となった。この減収分は、ボラティリティの上昇とデリバティブを中心とした顧客需要の拡大が奏功したフロー業務によって一部相殺された。当グループは、現物株式業務と上場株式業務の市場シェアを拡大した。
- **債券・為替・コモディティ業務**の収益は、2015年第3四半期に前年同期比22.7%減の4億7,900万ユーロとなり、2015年1~9月期では前年同期比13.6%減少⁽¹⁾した。中国の不透明感が、出来高が低迷する夏場にストラクチャード商品と債券業務に不利な市場環境を作り出した。新興市場とコモディティ業務の良好な業績がこの減収の一部を補った。
- **プライムサービス事業**の収益は振幅の激しい株式市場、特に欧州市場での旺盛な顧客需要に支えられ、2015年第3四半期に大幅増(37.5%増)の1億4,300万ユーロとなった(2015年1~9月期では前年同期比34.1%増⁽¹⁾)。

⁽¹⁾ 事業編成を同一条件とした場合

- **セキュリティーサービス事業の預かり資産は、前年比で 4.8%増加して 3 兆 9,950 億ユーロとなった。管理資産は同時期に 7.2%増の 5,850 億ユーロとなった。セキュリティーサービス事業の 2015 年第 3 四半期の収益は前年同期比 6.7%減少した。しかし、2015 年 1~9 月期の収益は前年同期比 1.6%増となった。**

ファイナンス&アドバイザー事業

ファイナンス&アドバイザー事業は 2015 年第 3 四半期も力強い増勢が続き、収益は前年同期比 7.9%増の 5 億 6,100 万ユーロとなった。天然資源ファイナンスは活発な取引を背景に前四半期に続いて活況を呈したほか、輸出およびインフラストラクチャーファイナンスも当事業の好業績に寄与した。アドバイザーおよびキャピタルマーケット業務は、停滞する市場において前年同期比横ばいの収益を維持した。

当事業の 2015 年 1~9 月期の収益は、取引件数の急増を反映して前年同期比 16.4%増の 17 億 6,800 万ユーロとなった。

アセット&ウェルスマネジメント事業

2015 年第 3 四半期のアセット&ウェルスマネジメント事業の収益は前年同期比 7.0%減の 2 億 5,400 万ユーロとなった。2015 年 1~9 月期の収益は前年同期比 2.3%増の 8 億 1,000 万ユーロであった。

2015 年 9 月末のプライベートバンキング事業の運用資産額は、マイナスの市場効果がフランス、ルクセンブルグを中心とする高水準の資金流入とプラスの為替効果の一部相殺したとはいえ、1,120 億ユーロに拡大し、事業編成を同一条件とした場合の 2014 年 9 月末比は 2.4%の増加となった。2015 年第 3 四半期の業務粗利益は、高い水準を記録した 2014 年第 3 四半期からは 6.8%減となる 2 億 400 万ユーロであった。一方、2015 年 1~9 月期の収益は引き続き前年同期を上回り、業務粗利益率は（昨年の 103bp に対し）108bp と高い水準で維持された。

222 億ユーロの増加となった年初来の資金流入がけん引し、2015 年 9 月末のリクソーの運用資産額は 1,057 億ユーロとなった。2015 年 9 月末のリクソーのマーケットシェアは 10.8%となり（ユーロネクスト）、欧州の ETF 業界で第 3 位の地位を確保した。2015 年第 3 四半期のリクソーの収益は、低い利益率の ETF 事業の比率が高まる事業構成の変化を反映し、前年同期比 10.2%減の 4,400 万ユーロとなった。

営業費用

2015 年第 3 四半期のグローバルバンキング&インベスターソリューションズ部門の営業費用は 1.6%増加したものの、グループ編成変更および為替相場の変動による影響を除いたベースでは、厳格な経費管理を反映し、2.8%の減少*となった。2015 年 1~9 月期の営業費用は 3.2%増*となり、単一破綻処理ファンドへの拠出（1 億ユーロ、IFRIC 第 21 号に従い第 1 四半期にその全額を計上）がマイナスの影響を及ぼした。この部門の 2015 年 9 月末の経費率は 71.5%であった。

営業利益

2015 年第 3 四半期の営業総利益は前年同期比 24.2%減の 4 億 3,800 万ユーロに低下した。2015 年 1~9 月期では、8.0%増の 20 億 6,900 万ユーロとなった。

石油セクターに関連する引当金の積み増しが反映されたため、2015年1～9月期の引当金純繰入額は、極めて低い水準となった2014年1～9月期の5,300万ユーロのマイナスに対し、1億7,400万ユーロのマイナスであった。

この部門の2015年1～9月期の営業利益は前年同期比1.7%増の18億9,500万ユーロであった。

当期純利益

グローバルバンキング&インベスターソリューションズ部門のグループ当期純利益への寄与は、2015年第3四半期は3億2,000万ユーロ、2015年1～9月期は3.1%増の15億3,300万ユーロであった。

IFRIC第21号の影響を調整した試算ベースでは、2015年1～9月期のROEは14.2%に上った。

6 - コーポレートセンター

(単位：百万ユーロ)	2014年第3四 半期	2015年第3四 半期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期
業務粗利益	(157)	314	(839)	427
業務粗利益 (1)	(153)	(133)	(656)	(394)
営業費用	(50)	(72)	(62)	(105)
営業総利益	(207)	242	(901)	322
営業総利益 (1)	(203)	(205)	(718)	(499)
引当金繰入額	0	0	(202)	(198)
その他の資産による純利益または純損失	0	1	206	(2)
グループ当期純利益	(202)	54	(615)	(83)
グループ当期純利益 (1)	(199)	(239)	(495)	(621)

(1) 金融債務の再評価について調整

コーポレートセンターには以下の項目が含まれる。

- グループ本社の不動産ポートフォリオ
- グループの株式ポートフォリオ
- グループの財務機能
- 部門横断的なプロジェクトに関連する特定の費用および事業にリインボイスされないグループの特定費用

2015年第3四半期のコーポレートセンターの収益は3億1,400万ユーロ（前年同期：1億5,700万ユーロのマイナス）となった。こうした収益には4億4,700万ユーロに相当するグループの金融債務の再評価額（前年同期：400万ユーロのマイナス）が主に含まれている。

営業費用は、2014年第3四半期の5,000万ユーロに対し、2015年第3四半期は7,200万ユーロであった。これには主にグループの変革計画に関連した4,000万ユーロに及ぶ事業再編成引当金が含まれている。

2015年第3四半期の営業総利益は、前年同期の2億700万ユーロのマイナスから2億4,200万ユーロに改善した。グループの金融債務の再評価（財務情報の基準となる事項の第7項を参照）を修正再表示した営業総利益は2億500万ユーロのマイナス（前年同期：2億300万ユーロのマイナス）となった。

2015年第3四半期のコーポレートセンターのグループ当期純利益への寄与は、主にグループの金融債務の再評価の影響により、前年同期の2億200万ユーロのマイナスから一転5,400万ユーロとなった。こうした影響額を修正再表示した2015年第3四半期のグループ当期純利益への寄与は2億3,900万ユーロのマイナス（前年同期：1億9,900万ユーロのマイナス）であった。

7 - 結論

ソシエテ ジェネラルは、新たな規制・技術環境への適合に向けた変革を推進し、株主・顧客価値を創造しうる能力を示した。当グループは、デジタルバンキングサービスや統合バンキングモデルにおける進展と、費用およびリスクの管理能力に乗じて、リレーションシップバンクとしての地位の確立を目指し、経済の資金調達を支えてきた。こうした背景により、2015年9月末の1株当たり純資産価値は2014年9月末から4.5%増加して60.46ユーロとなった。2015年9月末の1株当たり有形純資産価値は53.98ユーロ（2014年9月末比約5.2%増）に拡大し、（金融負債の再評価額および超劣後債と永久劣後債に対する支払利息を控除した）1株当たり利益は3.23ユーロと、2014年の合計額を上回る水準となり、株主に対してその50%を支払うことを提案する。

8 - 2016 年財務情報開示日程

2015・2016 年財務情報開示日程

2016年2月11日	2015年第4四半期および2015年通期決算の発表
2016年5月4日	2016年第1四半期決算の発表
2016年8月3日	2016年第2四半期および2016年上半期決算の発表
2016年11月3日	2016年第3四半期決算の発表

本文書にはソシエテジェネラルグループの目標・戦略に関連した将来の見通しに関する声明が含まれています。これらの声明は、一般事項と特別事項、特に欧州連合が採択している国際財務報告基準（IFRS）に準拠した会計原則・方法の適用、および既存のブルデンシャル規制の適用の両方を含む、一連の前提に基づいています。

また、本声明は、特定の競争・規制環境下における複数の経済前提に基づくシナリオに則して作成されました。当グループは以下を行うことができない場合があります。

- 当グループの事業に影響をもたらす可能性のある全てのリスク、不透明要因またはその他要因を予測すること、およびそれらが与える可能性のある影響を評価すること。
- リスクまたは複合リスクにより、実際の業績が本文書および関連資料に記載されている予測とどの程度異なるかを判断すること。

したがって、ソシエテジェネラルはこれらの声明は合理的な仮定に基づいていると考えているものの、かかる声明は、当社つまり経営陣が認知していない事象または現状で懸念材料とみなされていない事象を含む、数々のリスクと不透明要因にさらされており、予想していた事態が発生する、または設定していた目標が実際に達成されるという確証はありません。

実績を、将来の見通しに関する声明で予想されている業績とは大きく異なるものにしうる重要な要因には、とりわけ、一般的経済活動、より具体的にはソシエテジェネラルの市場における全体的な傾向、規制や健全性に関する変化、ならびに、当社の戦略的な、経営および財政に関する取り組みの成功が含まれます。

当社の業績に影響をもたらす可能性のあるリスクについてのより詳細な情報は、フランス金融監督庁に提出された発行登録書をご覧ください。

投資家の皆様におかれましては、本声明に含まれる情報をご参考にされる際には、当グループの業績に影響をもたらす可能性のある不透明要因やリスク要因を考慮されるようお勧めします。

適用される法律で義務付けられている場合を除き、ソシエテジェネラルは、将来の見通しに関する情報または声明の内容を更新または改正するいかなる義務も負いません。

特に明記しない限り、事業ランキングおよび市場ポジションは内部資料によるものです。

9 - 付属書類 1 : グループの主要指標 : 2015年1月1日まで遡る国際財務報告
 解釈指針委員会基準 (IFRIC) 第 21 号の実施に伴い、2014 年度決算に係
 る項目は修正再表示されている

連結損益計算書

(単位 : 百万ユーロ)	2014年 第3四半期	2015年 第3四半期	増減	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	増減	
業務粗利益	5,876	6,364	+8.3%	17,432	19,586	+12.4%	+10.3%*
営業費用	(3,920)	(3,978)	+1.5%	(11,825)	(12,544)	+6.1%	+3.4%*
営業総利益	1,956	2,386	+22.0%	5,607	7,042	+25.6%	+25.3%*
引当金純繰入額	(642)	(571)	-11.1%	(2,061)	(1,908)	-7.4%	-5.1%*
営業利益	1,314	1,815	+38.1%	3,546	5,134	+44.8%	+42.1%*
持分法適用会社純利益	39	56	+43.6%	141	166	+17.7%	
その他の資産による純利益または純損失	(7)	(1)	+85.7%	193	(42)	NM	
のれんの減損	0	0	NM	(525)	0	NM	
法人税	(395)	(629)	+59.2%	(1,000)	(1,596)	+59.6%	
当期純利益	951	1,241	+30.5%	2,355	3,662	+55.5%	
うち少数株主持分	69	115	+66.7%	225	317	+40.9%	
グループ当期純利益	882	1,126	+27.7%	2,130	3,345	+57.0%	+53.6%*
期末Tier1比率	13.0%	13.2%		13.0%	13.2%		

* グループ編成変更および為替相場の変動による影響を除いたベース

主力事業部門別税引後純利益

(単位 : 百万ユーロ)	2014年 第3四半期	2015年 第3四半期	増減	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	増減	
フランス国内リテールバンキング	317	410	29.3%	956	1,102	+15.3%	
国際リテールバンキング&金融サービス	311	342	+10.0%	302	793	x2.6	
グローバルバンキング&インベスター ソリューションズ	456	320	-29.8%	1,487	1,533	+3.1%	
主力事業部門	1,084	1,072	-1.1%	2,745	3,428	+24.9%	
コーポレートセンター	(202)	54	NM	(615)	(83)	+86.5%	
グループ	882	1,126	+27.7%	2,130	3,345	+57.0%	

連結貸借対照表

資産の部 (単位: 十億ユーロ)	2015年9月30日	2014年12月31日
現金および中央銀行預金	81.6	57.1
損益勘定を通じて公正価格で測定された金融資産	513.9	530.5
ヘッジ目的デリバティブ	16.7	19.4
売却可能金融資産	136.8	143.7
銀行預金	86.5	80.7
顧客貸出金	379.4	344.4
リース債権および類似契約	26.4	26.0
金利リスクをヘッジしたポートフォリオの再評価差額	2.8	3.4
満期保有目的金融資産	4.0	4.4
税金資産	6.7	7.4
その他資産	70.5	65.2
売却目的保有非流動資産	0.2	0.9
持分法適用子会社および関連会社への投資	2.9	2.8
有形および無形固定資産	19.0	17.9
のれん	4.4	4.3
資産の部合計	1,351.8	1,308.2

負債の部 (単位: 十億ユーロ)	2015年9月30日	2014年12月31日
中央銀行預金	6.1	4.6
損益勘定を通じて公正価格で測定された金融負債	465.3	480.3
ヘッジ目的デリバティブ	10.0	10.9
銀行預金	104.2	91.3
顧客預金	373.2	349.7
証券形態の債務	107.6	108.7
金利リスクをヘッジしたポートフォリオの再評価差額	8.4	10.2
税金負債	1.5	1.4
その他負債	91.8	75.1
売却目的保有非流動負債	0.2	0.5
保険会社の責任準備金	105.6	103.3
引当金	4.6	4.5
劣後債務	11.8	8.8
株主資本	57.9	55.2
非支配持分	3.6	3.6
負債の部合計	1,351.8	1,308.2

10 - 付属書類 2: 財務情報の基準となる事項

1- 2015年9月30日に終了した当グループの連結決算は2015年11月4日に取締役会において承認された。

2015年第3四半期に関する財務情報は、この日付において適用され、欧州連合が採択している、国際財務報告基準(IFRS)に準拠した方法により作成されており、未だ監査を受けていない。2015年1月1日におけるIFRIC第21号基準の遡及的实施に伴い、2014年度決算の数値は修正再表示されているため、前年度の修正再表示後の数値を発表した。

2- グループROEはIFRSに従いグループの平均株主資本に基づいて計算され、(i)株主資本の部に直接計上された未実現または繰り延べキャピタルゲインもしくはキャピタルロス(転換準備金を除く)、(ii)超劣後債、(iii)株主資本として認識された永久劣後債を除外し、(iv)超劣後債および修正再表示された永久劣後債に係る支払利息を控除したうえで算出されている。(v)株主に支払われる配当金に関する引当金(2015年9月30日時点で12億8,500万ユーロ)また、ROEの算出に使用したグループ当期純利益は、超劣後債に係る当期分の税引後支払利息、ならびに2006年以降は、超劣後債および修正再表示された永久劣後債に係る税引後支払利息(下記を参照のこと)を除外したものである。2014年1月1日より、事業間の資本配分は期初時点のリスク加重資産の10%に基づいている。

3- 普通株1株当たり利益を算出する上で、「グループ当期純利益」を以下の項目に係る、部分的買戻しにより実現したキャピタルゲイン/ロス(2015年は中立的)および税引後支払利息において修正した(利益の場合は削減し、損失の場合は追加)。

- (i) 超劣後債(2015年第3四半期は1億1,100万ユーロのマイナス、2015年1~9月期は3億3,000万ユーロのマイナス)
- (ii) 株主資本として認識された永久劣後債(2015年第3四半期は300万ユーロのプラス、2015年1~9月期は700万ユーロのプラス)

したがって、普通株1株当たり利益は、修正後の当期純利益を平均発行済株式数から自己株式を控除した数字で除して求める。ただし、(a)トレーディング目的で保有する自己株式、および(b)流動性契約に基づき保有する自己株式は平均発行済株式数に含まれる。

4- 純資産は、以下を除くグループ株主資本より構成される(i)超劣後債(94億ユーロ)、従来は負債に分類されていた永久劣後債(4億ユーロ)、(ii)超劣後債および永久劣後債に係る支払利息。ただし、トレーディング目的で保有する自己株式および流動性契約に基づき保有する自己株式の帳簿価額は含まれている。有形純資産は、資産の正味のれん代および持分法適用のれん代を調整する。1株当たり純資産価値または1株当たり有形純資産価値の算出に使用した株式数は、2015年9月30日現在の発行済株式数から自己株式および金庫株を控除したものである。ただし、(a)トレーディング目的で保有する自己株式、および(b)流動性契約に基づき保有する自己株式は含まれている。

5- ソシエテ ジェネラル グループの普通株式等Tier1資本は、適用のある自己資本規制/第4次自己資本指令(CRR/CRD4規則)規則に従い算出されている。完全実施の自己資本比率は、特に明記しない限り当会計年度における収益および配当純額に対する試算ベースの値である。段階的な比率として記載されている場合には、特に明記しない限り、当会計年度における収益を含まない。リバレッジ比率は、2014年10月の委任法令の規程を含む、適用のある自己資本規制/第4次自己資本指令(CRR/CRD4規則)規則に従い計算されている。

6- 当グループのROTEは有形資本を基準に算出し、累積平均帳簿資本(当グループの持分)、資産の正味のれん代の平均および持分法適用会社の保有株式に関するのれん代の平均などは控除する。ROTEの算出に使用した当期純利益は、のれん評価減、超劣後債に係る当期分の税引後還元支払利息(当期分の第三者に支払った発行手数料および超劣後債の発行プレミアムに係る割引料、超劣後公社債の償還プレミアムを含む)、永久劣後債に係る税引後支払利息(当期分の第三者に支払った発行手数料および永久劣後債の発行プレミアムに係る割引料を含む)を除外したものである。

7 - 経済活動と関係のない項目および修正再表示されている項目

経済活動と関係のない項目とは、金融債務の再評価に相当する。これらの項目、および修正再評価されているその他の項目の2014年第3四半期および2015年第3四半期、2014年1～9月期、2015年1～9月期の詳細は以下のとおり。

(単位：百万ユーロ)

2014年第3四半期	業務粗利益	営業費用	その他	引当金 純繰入額	グループ 当期純利益	
金融債務の再評価*	(4)				(3)	コーポレートセンター
DVAの影響*	2				1	グループ
CVAの影響**	(39)				(26)	グループ
PEL/CEL引当金	(63)				(39)	フランス国内リテール バンキング

2015年第3四半期	業務粗利益	営業費用	その他	引当金 純繰入額	グループ 当期純利益	
金融債務の再評価*	447				293	コーポレートセンター
DVAの影響*	(109)				(71)	グループ
CVAの影響**	(14)				(9)	グループ
PEL/CEL引当金	(8)				(5)	フランス国内リテール バンキング

* 経済活動と関係のない項目

**参考情報

(単位：百万ユーロ)

2014年1-9月期	業務粗利益	営業費用	その他	引当金 純繰入額	グループ 当期純利益	
金融債務の再評価*	(183)				(120)	コーポレートセンター
DVAの影響*	5				3	グループ
CVAの影響**	56				37	グループ
減損損失&キャピタルロス			(525)		(525)	国際リテールバンキング &金融サービス
PEL/CEL引当金	(78)				(48)	フランス国内リテール バンキング
訴訟関連引当金				(200)	(200)	コーポレートセンター
減損損失&キャピタルロス			210		210	コーポレートセンター
2015年1-9月期						
2015年1-9月期	業務粗利益	営業費用	その他	引当金 純繰入額	グループ 当期純利益	
金融債務の再評価*	821				538	コーポレートセンター
DVAの影響*	(105)				(69)	グループ
CVAの影響**	3				2	グループ
PEL/CEL引当金	(83)				(51)	フランス国内リテール バンキング
訴訟関連引当金				(200)	(200)	コーポレートセンター

* 経済活動と関係のない項目

**参考情報

グループの構成変更と為替レートを一定として調整した場合の業務粗利益の変動の算出および経費率の算出に関して比較される項目は、会計基準IFRIC第21号の実施に係る影響を調整している。業務粗利益および営業費用の調整にかかる主要項目の詳細は以下のとおり。

(単位：百万ユーロ)

	フランス国内リテ ールバンキング		国際リテールバンキ ング&金融サービス 部門		グローバルバンキ ング&インベスタ ーソリューションズ		コーポレートセ ンター		グループ	
	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期
IFRIC 21の影響の合計-NBI			-26						-26	
IFRIC 21の影響の合計-費用	-69	-62	-83	-116	-103	-188	-16	-37	-271	-403
うちSRF		-19		-18		-102		-2		-141
経費率(3)	62.9%	62.1%	57.5%	57.8%	70.2%	70.0%			66.5%	65.7%

	国際リテール バンキング		法人向け 金融サービス		保険		その他		合計	
	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期
IFRIC 21の影響の合計-NBI	-26								-26	
IFRIC 21の影響の合計-費用	-38	-75	-14	-8	-25	-25	-6	-8	-83	-116
うちSRF		-17						-1		-18

	西欧		チェコ共和国 (1)		ルーマニア		ロシア		その他欧州(2)		アフリカ、アジア、 地中海沿岸地域およ び海外		国際リテール バンキング合計	
	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期
IFRIC 21の影響の合計-NBI					-20				-6				-26	
IFRIC 21の影響の合計-費用	-6	-5	-6	-19	-3	-23	-7	-5	-6	-16	-10	-7	-38	-75
うちSRF		-1		-15						-1				-17

	グローバルマーケッ &インベスターサービ ス		ファイナンス& アドバイザー		アセット&ウェルス マネジメント		グローバルバンキング &インベスターソリ ューションズ合計	
	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期	2014年 1-9月期	2015年 1-9月期
IFRIC 21の影響の合計-NBI								
IFRIC 21の影響の合計-費用	-69	-144	-30	-39	-4	-5	-103	-188
うちSRF		-88		-12		-2		-102

- (1) チェコ共和国において、2014年の業務粗利益に計上された現地の預金保険基金に対する-2,300万ユーロの出資は、2015年からは費用として報告されている。
- (2) 「その他欧州」において、2014年の業務粗利益に計上された現地の預金保険基金に対する-800万ユーロの出資は、2015年からは費用として報告されている。
- (3) グループの金融債務の再評価、負債評価調整 (DVA)、PEL-CEL およびIFRIC第 21号の25%を除く。

注(1) 表および分析に含まれている数値の合計は、四捨五入の誤差により、公表されている合計の数値と僅かに異なる場合があります。

注(2) 当該期間の詳細(英語版)は、以下のホームページでご覧になれます。グループのホームページ www.societegenerale.comの「投資家」セクション。

11 -四半期決算

(単位：百万ユーロ)	Q1 14	Q2 14	Q3 14	Q4 14	2014	Q1 15	Q2 15	Q3 15
フランス国内リテールバンキング								
業務粗利益	2,073	2,066	2,019	2,117	8,275	2,055	2,153	2,162
営業費用	-1,380	-1,269	-1,285	-1,423	-5,357	-1,391	-1,304	-1,326
営業総利益	693	797	734	694	2,918	664	849	836
引当金純繰入額	-232	-269	-237	-303	-1,041	-230	-183	-201
営業利益	461	528	497	391	1,877	434	666	635
持分法適用会社純利益	10	12	13	10	45	15	7	15
その他資産の損益	-5	1	-6	-11	-21	-17	-2	0
法人税	-174	-201	-186	-143	-704	-159	-252	-240
当期純利益	292	340	318	247	1,197	273	419	410
うち少数株主持分	1	-8	1	-1	-7	0	0	0
グループ当期純利益	291	348	317	248	1,204	273	419	410
平均配賦資本	10,166	10,101	9,892	9,601	9,940	9,743	9,821	9,754
(単位：百万ユーロ)								
国際リテールバンキング&金融サービス								
業務粗利益	1,790	1,887	1,899	1,848	7,424	1,782	1,854	1,888
営業費用	-1,119	-1,041	-1,048	-1,071	-4,279	-1,157	-1,047	-1,018
営業総利益	671	846	851	777	3,145	625	807	870
引当金純繰入額	-378	-312	-378	-374	-1,442	-333	-287	-302
営業利益	293	534	473	403	1,703	292	520	568
持分法適用会社純利益	7	11	13	19	50	14	7	8
その他資産の損益	3	0	-1	-200	-198	-25	-1	-1
のれんの減損	-525	0	0	0	-525	0	0	0
法人税	-82	-144	-128	-105	-459	-81	-146	-158
当期純利益	-304	401	357	117	571	200	380	417
うち少数株主持分	39	67	46	49	201	61	68	75
グループ当期純利益	-343	334	311	68	370	139	312	342
平均配賦資本	9,564	9,335	9,676	9,727	9,576	9,513	9,667	9,641

(単位：百万ユーロ)	Q1 14	Q2 14	Q3 14	Q4 14	2014	Q1 15	Q2 15	Q3 15
うち 国際リテールバンキング								
業務粗利益	1,288	1,358	1,374	1,330	5,350	1,210	1,261	1,285
営業費用	-833	-802	-797	-812	-3,244	-838	-799	-747
営業総利益	455	556	577	518	2,106	372	462	538
引当金繰入額	-367	-291	-355	-342	-1,355	-277	-239	-281
営業利益	88	265	222	176	751	95	223	257
持分法適用会社純利益	4	3	4	3	14	4	4	3
その他資産の損益	3	0	-1	-200	-198	0	-1	-1
のれんの減損	-525	0	0	0	-525	0	0	0
法人税	-22	-60	-53	-38	-173	-22	-51	-58
当期純利益	-452	208	172	-59	-131	77	175	201
うち少数株主持分	35	64	42	45	186	57	66	72
グループ当期純利益	-487	144	130	-104	-317	20	109	129
平均配賦資本	5,984	5,845	6,058	5,991	5,969	5,758	5,878	5,735
うち 法人向け金融サービスおよび保険								
業務粗利益	504	529	529	523	2,085	569	587	600
営業費用	-275	-241	-247	-253	-1,016	-294	-265	-264
営業総利益	229	288	282	270	1,069	275	322	336
引当金繰入額	-21	-20	-23	-24	-88	-25	-22	-23
営業利益	208	268	259	246	981	250	300	313
持分法適用会社純利益	5	6	10	16	37	10	3	5
その他資産の損益	0	0	0	0	0	0	0	0
のれんの減損	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税	-66	-86	-81	-78	-311	-80	-95	-100
当期純利益	147	188	188	184	707	180	208	218
うち少数株主持分	1	1	2	2	6	1	2	1
グループ当期純利益	146	187	186	182	701	179	206	217
平均配賦資本	3,434	3,373	3,508	3,632	3,487	3,636	3,707	3,802
うち 保険								
業務粗利益	182	191	193	191	757	205	205	206
営業費用	-92	-66	-71	-71	-300	-102	-74	-75
営業総利益	90	125	122	120	457	103	131	131
引当金繰入額	0	0	0	0	0	0	0	0
営業利益	90	125	122	120	457	103	131	131
持分法適用会社純利益	0	0	0	0	0	0	0	0
その他資産の損益	0	0	0	0	0	0	0	0
のれんの減損	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税	-29	-40	-39	-37	-145	-33	-42	-42
当期純利益	61	85	83	83	312	70	89	89
うち少数株主持分	0	0	1	2	3	0	1	0
グループ当期純利益	61	85	82	81	309	70	88	89
平均配賦資本	1,526	1,528	1,582	1,609	1,561	1,639	1,645	1,663
うち 法人向け金融サービス								
業務粗利益	322	338	336	332	1,328	364	382	394
営業費用	-183	-175	-176	-182	-716	-192	-191	-189
営業総利益	139	163	160	150	612	172	191	205
引当金繰入額	-21	-20	-23	-24	-88	-25	-22	-23
営業利益	118	143	137	126	524	147	169	182
持分法適用会社純利益	5	6	10	16	37	10	3	5
その他資産の損益	0	0	0	0	0	0	0	0
のれんの減損	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税	-37	-46	-42	-41	-166	-47	-53	-58
当期純利益	86	103	105	101	395	110	119	129
うち少数株主持分	1	1	1	0	3	1	1	1
グループ当期純利益	85	102	104	101	392	109	118	128
平均配賦資本	1,909	1,845	1,925	2,023	1,926	1,997	2,062	2,139
うちその他								
業務粗利益	-2	0	-4	-5	-11	3	6	3
営業費用	-11	2	-4	-6	-19	-25	17	-7
営業総利益	-13	2	-8	-11	-30	-22	23	-4
引当金繰入額	10	-1	0	-8	1	-31	-26	2
営業利益	-3	1	-8	-19	-29	-53	-3	-2
持分法適用会社純利益	-2	2	-1	0	-1	0	0	0
その他資産の損益	0	0	0	0	0	-25	0	0
のれんの減損	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税	6	2	6	11	25	21	0	0
当期純利益	1	5	-3	-8	-5	-57	-3	-2
うち少数株主持分	3	2	2	2	9	3	0	2
グループ当期純利益	-2	3	-5	-10	-14	-60	-3	-4
平均配賦資本	146	118	110	105	120	119	82	104

(単位: 百万ユーロ)	Q1 14	Q2 14	Q3 14	Q4 14	2014	Q1 15	Q2 15	Q3 15
グローバルバンキング&インベスター ソリューションズ								
業務粗利益	2,127	2,295	2,115	2,189	8,726	2,590	2,675	2,000
営業費用	-1,538	-1,546	-1,537	-1,677	-6,298	-1,874	-1,760	-1,562
営業総利益	589	749	578	512	2,428	716	915	438
引当金繰入額	-54	28	-27	-28	-81	-50	-56	-68
営業利益	535	777	551	484	2,347	666	859	370
持分法適用会社純利益	25	19	28	26	98	37	19	31
その他資産の損益	0	-5	0	0	-5	-1	8	-1
のれんの減損	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税	-127	-186	-118	-84	-515	-176	-190	-76
当期純利益	433	605	461	426	1,925	526	696	324
うち少数株主持分	3	4	5	4	16	4	5	4
グループ当期純利益	430	601	456	422	1,909	522	691	320
平均配賦資本	12,419	12,742	13,299	13,683	13,036	13,544	15,526	15,037
うちグローバルマーケッツ&インベスターズ (2014 年以降)								
業務粗利益	1,413	1,491	1,322	1,402	5,628	1,770	1,732	1,185
うちエクイティ業務	653	496	435	652	2,236	853	799	411
うち債券・為替・コモディティ業務	556	711	620	463	2,350	584	607	479
うちプライムサービス事業	31	101	104	117	353	144	142	143
うちセキュリティーズサービス事業	173	183	163	170	689	188	184	152
営業費用	-1,008	-1,032	-992	-1,094	-4,126	-1,295	-1,189	-995
営業総利益	405	459	330	308	1,502	475	543	190
引当金繰入額	-10	2	-21	-6	-35	-5	-26	-7
営業利益	395	461	309	302	1,467	470	517	183
持分法適用会社純利益	-2	-1	0	3	0	1	2	2
その他資産の損益	0	0	0	2	2	-1	0	1
のれんの減損	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税	-106	-118	-70	-84	-378	-133	-132	-36
当期純利益	287	342	239	223	1,091	337	387	150
うち少数株主持分	2	3	5	2	12	3	3	5
グループ当期純利益	285	339	234	221	1,079	334	384	145
平均配賦資本	7,936	7,995	8,278	8,410	8,155	7,996	9,163	8,365
うちファイナンス&アドバイザー								
業務粗利益	453	546	520	541	2,060	522	685	561
営業費用	-323	-312	-323	-345	-1,303	-367	-375	-361
営業総利益	130	234	197	196	757	155	310	200
引当金繰入額	-43	27	-4	-20	-40	-30	-28	-60
営業利益	87	261	193	176	717	125	282	140
持分法適用会社純利益	0	0	1	-1	0	9	-14	0
その他資産の損益	0	-8	-1	-1	-10	0	9	-2
のれんの減損	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税	-8	-50	-34	1	-91	-22	-40	-26
当期純利益	79	203	159	175	616	112	237	112
うち少数株主持分	0	2	-1	2	3	0	2	-2
グループ当期純利益	79	201	160	173	613	112	235	114
平均配賦資本	3,454	3,698	4,024	4,251	3,857	4,564	5,314	5,534
うちアセット & ウェルネスマネジメント								
業務粗利益	261	258	273	246	1,038	298	258	254
うちリクソー	48	50	49	55	202	52	52	44
うちプライベートバンキング	207	201	219	188	815	240	200	204
うちその他	6	7	5	3	21	6	6	6
営業費用	-207	-202	-222	-238	-869	-212	-196	-206
営業総利益	54	56	51	8	169	86	62	48
引当金繰入額	-1	-1	-2	-2	-6	-15	-2	-1
営業利益	53	55	49	6	163	71	60	47
持分法適用会社純利益	27	20	27	24	98	27	31	29
その他資産の損益	0	3	1	-1	3	0	-1	0
のれんの減損	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税	-13	-18	-14	-1	-46	-21	-18	-14
当期純利益	67	60	63	28	218	77	72	62
うち少数株主持分	1	-1	1	0	1	1	0	1
グループ当期純利益	66	61	62	28	217	76	72	61
平均配賦資本	1,029	1,050	997	1,023	1,025	984	1,049	1,138

(単位：百万ユーロ)	Q1 14	Q2 14	Q3 14	Q4 14	2014	Q1 15	Q2 15	Q3 15
コーポレートセンター								
業務粗利益	-334	-348	-157	-25	-864	-74	187	314
うち 金融負債	-158	-21	-4	44	-139	62	312	447
営業費用	-36	24	-50	-41	-103	-20	-13	-72
営業総利益	-370	-324	-207	-66	-967	-94	174	242
引当金繰入額	-3	-199	0	-201	-403	0	-198	0
営業利益	-373	-523	-207	-267	-1,370	-94	-24	242
持分法適用会社純利益	11	7	-15	17	20	2	9	2
その他資産の損益	0	206	0	127	333	9	-12	1
のれんの減損	0	0	0	0	0	0	0	0
法人税	180	129	37	-44	302	46	-9	-155
当期純利益	-182	-181	-185	-167	-715	-37	-36	90
うち少数株主持分	27	23	17	22	89	29	35	36
グループ当期純利益	-209	-204	-202	-189	-804	-66	-71	54
グループ								
業務粗利益	5,656	5,900	5,876	6,129	23,561	6,353	6,869	6,364
営業費用	-4,073	-3,832	-3,920	-4,212	-16,037	-4,442	-4,124	-3,978
営業総利益	1,583	2,068	1,956	1,917	7,524	1,911	2,745	2,386
引当金繰入額	-667	-752	-642	-906	-2,967	-613	-724	-571
営業利益	916	1,316	1,314	1,011	4,557	1,298	2,021	1,815
持分法適用会社純利益	53	49	39	72	213	68	42	56
その他資産の損益	-2	202	-7	-84	109	-34	-7	-1
のれんの減損	-525	0	0	0	-525	0	0	0
法人税	-203	-402	-395	-376	-1,376	-370	-597	-629
当期純利益	239	1,165	951	623	2,978	962	1,459	1,241
うち少数株主持分	70	86	69	74	299	94	108	115
グループ当期純利益	169	1,079	882	549	2,679	868	1,351	1,126
平均配賦資本	42,171	42,206	42,908	43,277	42,641	43,674	44,766	45,437
グループROE (税引後)	0.8%	9.3%	7.2%	4.0%	5.3%	6.9%	11.2%	9.0%